

大地の生い立ち・美濃加茂③

盆地の始まり、幻の蜂屋火山

長い間大陸の端に位置していた美濃加茂地域は、約二千万年前、火山活動が発生して陥没盆地ができました。これが美濃加茂盆地の始まりになります。火山噴火は浅い湖で発生したため、溶岩は水で急冷されて自破砕溶岩になりました。火山活動は五期、二百万年以上にわたって断続的に続きました。

蜂屋町や山之上町などの大地には、安山岩の角礫が火山灰に埋まってできた凝灰角礫岩で造られています。凝灰角礫岩のなかには、溶岩のほかにも、玉ずいやめもの、珪化した樹木、方解



火山が生んだ凝灰角礫岩（川辺町）



水中で割れた自破砕溶岩（山之上町）

石やフツ石を含む岩石などが見つかります。また、火山活動の休止期のおだやかな湖には魚類が、その周囲には森林もあり、動物や昆虫なども生活していました。（博物館専門委員・鹿野勘次）

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成五年八月分①）

○石臼ほか六點

（若宮竜内さん／森山町）

○トアウチほか一点

（渡辺豊晴さん／川合町）

○千歯ノキほか四點

（渡辺太郎さん／川合町）

市社会教育課博物館建設係（内線二八一）まで情報をお寄せください。